

海外で起業する ベトナムの若者たち

の が み え み
野上 恵美 神戸大学大学院国際文化学研究所

ベトナムの「働き盛り」

ベトナム戦争が終結し、三五年以上が経過した現在、ベトナムは経済発展の最中にあり、活気のある国として大きく様変わりしつつある。好景気に沸くベトナムに日系企業も注目しており、現在ではおよそ一六〇〇社の日系企業が進出しているといわれている。

ベトナムの経済発展の背景のひとつとして、若者を中心とした労働人口がベトナム全体の人口の六〇パーセントを超えているという点にある。「働き盛り」が人口の大部分を占めるベトナムに、今後ますます経済発展が期待されている。そのような状況のなかで、ベトナムを飛び出し日本で起業したひとりのベトナム人女性を紹介したい。

ランさんのベトナム雑貨店

現在、神戸に住むランさん（仮名）は、一九九五年に来日した。まもなくランさんは、親戚が営むベトナム料理店を手伝いながら日本語を学びはじめた。その後、ランさんは日本人が経営するベトナム雑貨店を手伝うようになった。ランさんの魅力的な人柄ときめ細かい接客対応は雑貨店のオーナーから信頼をえることに



ランさんの店内の人気商品

なり、ランさんはベトナムへ雑貨を買い付けに行く仕事も手伝うようになった。数年の手伝い期間を経て、ランさんは来日当初からの夢であったベトナム雑貨店を開店した。色とりどりの雑貨がセンス良く並び店内には、常連客だけでなく人目を引く色鮮やかな雑貨に惹かれて通りすがりの客がかわるがわる入ってくる。

日本で起業すること

ランさんが日本に活躍の場を求めた理由として、すでに親戚が日本で起業していたことが大きいだろう。しかし、異国の地である日本で起業するということは、並大抵の努力では実現できないことは容易に想像がつく。ランさんも例外ではなく、来日から今日に至るまで、ひたむきに努力を重ねてきただけでなく、さまざまな苦労を経験してきた。しかしながら、若者世代が多いベトナムにおいて、海外で起業することについては、場合によってはライバルが多い国内で起業するよりも成功を掴む可能性が大きいかもしれない。日本で起業したランさんとの出会いは、経済発展により注目が高まりつつあるベトナムがもつ厳しい側面について考えるきっかけになった。